

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773700469		
法人名	株式会社ライフサポートジャパン		
事業所名	ゆうとび庵摂津・千里丘		
所在地	大阪府摂津市千里丘東1-13-7		
自己評価作成日	令和6年6月1日	評価結果市町村受理日	令和6年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和6年6月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆうとび庵摂津・千里丘では地域との関わりを大切にしており自治会にも加入しています。自治会でいられる夏祭りや運動会などの地域行事への参加や、防災訓練などへの参加も行い地域の一人としての活動を積極的に行っています。他にもご近所の皆様と花火大会を開催したり、社会福祉協議会と協同し、認知症ボランティアの育成や活動の受け入れ等を行っています。施設内でも様々なレクリエーションを展開して、主に季節を感じていただける行事を企画し皆様に楽しんで頂いています。また、建物の1階にクリニックがあり、細やかな医療のサポートを受けることができますので、安心して日々の生活を過ごして頂くことができます。入居者、家族、職員が一つになれるような関係作りを大切に、地域に開かれたアットホームなグループホームを目指し取り組んでいます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所・各フロアの年間目標を作成し、理念・基本方針の実践に取り組んでいる。各種会議・委員会・研修を定期的・計画的に行い、職員の資質向上と連携に努め、職員の定着も良い。各種委員会体制が機能し、食事・おやつレクリエーション、作品・園芸レクリエーション、毎月の行事等、利用者が日常生活の中で季節感や楽しみを感じられるよう取り組んでいる。職員の意見を集約して毎月モニタリングを行い、PDCAサイクルに基づいたケアマネジメントにより利用者個々の現状に即した個別支援につなげている。建物1階のクリニックによる往診・訪問看護・24時間連絡体制があり、医療依存度の高い利用者の受け入れと対応が可能であり、希望に応じて看取り介護への対応も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着の意義を踏まえた事業理念を各フロア毎に掲示しその理念の共有、実践に繋がっています。	法人共通の理念「より良い介護」「感動ある介護」と基本方針を作成している。基本方針は具体的な8項目で、地域密着型サービスの意義を明示している。理念・基本方針を玄関と各フロアに掲示し、新人研修で説明し、毎年年度初めに「運営理念・運営方針研修」を実施し共有と理解を図っている。理念・基本方針をもとに事業所と各フロアの年間目標を毎年作成し、理念・基本方針の実践に取り組んでいる。フロア目標を毎月のフロア会議で確認して意識づけを行い、年度末に評価し次年度のフロア目標の作成に反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域とのつながりを大切にし日常的な交流に繋がっています。	自治会に加入し、自治会便りによる情報提供や自治会長の協力があり、近隣の住民とも日常的に挨拶や言葉を交わしている。コロナ禍以前は、地域の行事や防災訓練への参加、事業所の夏祭り等での交流、ボランティアの来訪、地域ボランティアの育成、認知症カフェの開催、実習生の受け入れ等、地域交流・地域貢献に積極的に取り組んでいた。コロナ禍のため上記の取り組みは休止しているが、買い物や訪問理美容等で地域の店舗を利用したり、市役所での作品展に利用者の作品を出展したり、事業所の認知症カフェスペースを発熱外来に提供する等、可能な方法で地域交流・地域貢献が継続できるよう取り組んでいる。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ボランティアの育成に協力し貢献しています。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2カ月に1回開催。月々の活動報告をし意見、評価を頂きサービスの向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは直接及び事業所連絡会などを通じて連携を図り協力関係を作っています。	市役所・社会福祉協議会・地域包括支援センターと連携を図り協力関係を築いている。運営推進会議の報告書を通して、利用者状況や事業所の取り組み等を市に伝えている。福祉的支援が必要な利用者を、市の支援課と協働して支援している。市の「つながりネット」を通して、市・医療・福祉のネットワークに参加している。事業者連絡会の定期的な会議(2ヶ月に1回)に参加し、「介護の日」イベントや研修開催時は開催協力し参加している。	

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を定期的に行い施設全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	「身体拘束適正化のための指針」「身体拘束廃止マニュアル」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。「身体拘束適正化委員会」を3ヶ月に1回を開催している。委員会では、各フロアの状況報告と行動制限につながらない対応や言葉かけ等について検討している。議事録を回覧し、回覧印により職員の周知を確認している。年間研修計画に沿って、「身体拘束廃止・虐待防止」研修を年に2回実施している。令和5年度は、1回は事例検討のレポート研修、1回は各フロアでの資料回覧による研修を実施している。フロアの入り口は施錠しているが、外出の希望があれば、近隣の散歩や玄関前の花壇スペースでの気分転換等、閉塞感を感じないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為研修を行い事業所内で虐待が発生しないよう防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修の機会を持ち必要に応じて活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約等の際は十分な説明を行い且つ質問などお答えしご理解をいただけるよう努めています。		

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、面会やお電話などでもお聞きする機会を作っています。また話しやすい環境作りを心がけています。	家族の面会時(玄関ホール)や電話連絡の際に利用者の近況を報告し、家族の意見・要望の把握に努めている。意見箱を設置したり、写真を多数掲載した「ゆうとぴ庵通信」と担当職員が利用者個々の生活の様子等を手書きした「近況報告」を毎月郵送し、家族の意見・要望が出やすいように取り組んでいる。管理者が窓口となり、個人的な意見・要望については個別に対応し、面会や電話対応等運営やサービスに関しては事業所の方針や状況も説明しながら対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などを通じて職員の意見や提案をヒヤリングし反映に努めています。	月1回マネージャー会議・フロア会議・各種委員会(コンプライアンス・生活・食事)を、3月に1回各種委員会(身体拘束等適正化・感染症対策)を開催し、職員の意見・提案を運営やサービスに反映している。マネージャー会議で各フロア・各委員会からの情報を共有し、フロア会議で利用者のケアや業務等について検討している。生活委員会では行事・環境について、食事委員会では食事・おやつレクリエーションや食事の委託業者への意見について、コンプライアンス委員会では事故ヒヤリハット事例について話し合っている。日々の検討事項については、検討結果や経過を「申し送りノート」で共有し、フロア会議で確認している。管理者が適宜個人面談を行い、職員の意見を個別に聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のバックアップや有給の取得など職場環境の向上に努めています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各個人のスキルや経験に合った内部研修や外部研修の機会を設け環境整備に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所連絡会の交流イベントなど積極的に参加しネットワーク作り行なっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の困りごとや要望などに耳を傾け安心いただけるよう関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望など事前に確認しサービスの提供を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今すぐ必要となるサービスを確認し提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあう関係であることを自覚し共に生活をする者として関係構築を心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と本人様の関係にも配慮しながら共に支えあう関係作りを心がけています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がこれまで築いてきた馴染みの関係を大切にしながらその交流を引き続き継続できるよう支援に努めています。	家族・友人・知人の来訪時は玄関ホールで面会できるよう支援し、馴染みの人との関係継続を支援している。自宅や馴染みのスーパー・美容室等、馴染みの場所へは家族との外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人が孤立することなく関わり合い、支えあえる関係ができるよう支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係を大切にしながら必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いを大切に本人の立場に立って検討しています。	入居時に聞き取りにより把握した情報(生活歴、生活習慣、本人様・家族様の意向等)は、「フェイスシート(プロフィール)」「アセスメントシート(心身の情報・焦点情報)」に記録している。日々のコミュニケーションの中で把握した思いや意向は、随時付箋等に記載し、「アセスメントシート」の更新時に追記し、施設サービス計画に反映している。意思の疎通が困難な場合は、利用者の表情やしぐさから推察して把握に努め、家族からの意見・情報を参考に本人本位で支援できるよう工夫している。	日々のコミュニケーションで把握した情報は、個別の「介護記録」の裏面に特記事項として記録し共有してはどうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様から生活歴についてヒヤリング行い経緯からの把握に努めています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方について日々確認し状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよく暮らすための課題など関係者と話し合いそれぞれの意見の反映に努めています。	フェイスシート・アセスメントシート(心身の情報・焦点情報)をもとに初回の施設サービス計画を作成している。毎月、「モニタリング表」に職員が記入した意見とフロア会議での検討をもとに「モニタリング表」で評価を行っている。必要時は随時、定期的には3カ月毎に計画の見直しを行っている。サービスの実施状況は、「介護記録」「ケア実施表」に記録している。「ケア実施表」は計画の短期目標ごとの実施状況を記録する書式になっている。計画の見直し時には、「モニタリング表」による評価と「アセスメントシート」による再アセスメントを行い、フロア会議の中で「ケアプラン見直し」を位置づけている。	さらなる取り組みとして、計画見直し時のフロア会議の議事録に、「利用者・家族の意向欄」「関係者(主治医・看護師等)の意見欄」を設け明記してはどうか。「介護記録」の「特記事項欄」に、利用者の様子等を記録してはどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践の結果など記録し職員間で情報を共有し次のケアへの見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のケアの実践の結果など記録し職員間で情報を共有し次のケアへの見直しに活かしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し豊かな生活が実現できるよう支援しています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望など伺いかかりつけ医と連携し適切な医療の提供を支援しています。	入居時に利用者・家族に確認し、意向に沿った受診支援を行っている。現在、全利用者が建物1階のクリニックの内科・循環器科の訪問診療と訪問看護の訪問を受け、24時間連絡可能な体制を整備している。必要時に心療内科・歯科の往診を受けられる体制もある。眼科・皮膚科など他科については外部受診とし、家族同行を基本としている。状況に応じて、介護タクシーの利用・職員の同行・主治医の紹介状による情報提供等、適切な医療が受けられるよう支援している。訪問診療・外部受診・訪問看護については、「介護記録」の医療欄に記録し職員間で周知を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とも連携行い適切な看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側とも入院時など情報交換を行い円滑にできるよう関係作り行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には重度化、終末期についての説明を行っています。その後も状態に合わせて話し合う機会を設け、気持ちに寄り添った支援に取り組んでいます。	重度化・終末期に向けた事業所の方針を、契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」と「看取りに関する指針」に沿って説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から家族に状態を説明し、事業所から指針の内容を再度説明し、家族の意向を確認している。事業所での看取りの希望があれば、主治医・訪問看護師・事業所で連携を密にとり、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。必要に応じて施設サービス計画を変更し、「発症経過シート」に状態・経過・家族との話し合い等を記録している。	今後は、適宜、「看取り介護」の研修も実施されてはどうか。

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習など学んだり緊急時の研修など備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害・避難訓練について年2回の研修を実施、また地域の防災訓練にも積極的に参加し協力体制も築いています。	年間計画に沿って、年2回、利用者も参加して総合訓練を実施している。令和5年7月に昼間想定消防訓練を、令和6年2月に夜間想定消火・通報・避難訓練を実施している。移動可能な利用者は1階駐車場まで避難し、消火器訓練にも参加している。訓練後は、写真による訓練記録を作成し、各フロアで回覧している。年間研修計画に沿って、7月に「緊急時対応マニュアル」、2月に「災害時発生対応訓練」「AEDの使い方」研修を実施している。地区の要支援者としてのリストアップがあり、地域の防災訓練があれば積極的に参加する等、地域との協力体制を築いている。備蓄は法人内で共同備蓄し、事業所内でも備品・水・食料を備蓄し、フロアごとに非常用持ち出し袋を整備している。	今後は実施記録に、訓練の内容や訓練後の振り返り(反省点・良かった点・改善点等)を記載し、全職員に周知し、回覧印などで周知を確認してはどうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し言葉かけに注意しています。	年間研修計画に沿って「プライバシー保護」「接遇マナー」「認知症ケア」研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を継続して設けている。また、「認知症ケア」についての資料回覧研修を毎月実施し、「身体拘束適正化委員会」の中で振り返る機会を設ける等、不適切ケア防止について意識向上に努めている。気になる対応等があれば、その場で都度管理者やフロアリーダーが注意・助言を行っている。	

ゆうとぴ庵 摂津・千里丘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の意思決定への働きかけ行い支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが実現できるよう支援行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の意向も聞きながら季節に合った服装やおしゃれを支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人ができることや能力を生かしながら楽しみが広がるよう支援しています。	委託業者から献立と食材が届き、各フロアのキッチンで調理した食事を毎食提供している。利用者の状況に応じて献立をアレンジしたり、個々の嚥下状態に応じた食事形態に変更する等、適宜対応している。毎月食事委員会を開催し、利用者の食事状況や献立・食材等についての意見を共有し、委託業者に伝えている。利用者の力量や意向に応じて、食器洗いや片づけに参加できるよう支援している。食事委員会で、利用者の希望や季節感を採り入れた食事レクリエーション・おやつレクリエーション・誕生会等を企画し、食事をより楽しめる機会づくりに取り組んでいる。また、食事レクリエーション・おやつレクリエーションで、利用者も買い物や調理に参加できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養状態に注意しながら一人一人の習慣に応じた支援をおこなっています。		

ゆうとぴ庵摂津・千里丘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて口腔ケアを毎日行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングや習慣など理解し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。	「介護記録」の排泄チェック欄に記録し、利用者個々の排泄状況や排泄パターンを把握している。日中は可能な限りトイレでの排泄を支援し、状況に応じて2人介助を行っている。夜間は安眠にも配慮し、利用者個々の状況に応じて、トイレ誘導・排泄用品交換・ナースコール対応を行っている。申し送りノートで状況を共有し、毎月のフロア会議で介助方法・排泄用品の使用について検討し、現状に即した支援につなげている。居室やトイレのドアの開閉や、誘導時や職員間の報告の際は周囲に留意する等、プライバシーへの配慮について周知を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をはじめ食事、お薬、運動など取り入れながら便秘の予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の希望も聞きながら入浴支援行っています。	「介護記録」の入浴欄や「入浴表」で入浴状況を把握し、体調や希望に応じて柔軟に対応し、週2回以上入浴できるよう取り組んでいる。一般浴槽の個浴で、一人ずつ湯を入れ替え、個々のペースでゆっくり入浴ができるよう支援している。状況に応じて2人介助・シャワー浴・清拭で対応し、同性介助の希望には同性で対応し、入浴拒否がある場合は声かけのタイミングを工夫する等、個別の配慮で対応している。しょうぶ湯・ゆず湯・入浴剤の使用や玩具の持ち込み等、入浴がより楽しめるよう工夫している。	

ゆうとぴ庵 摂津・千里丘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人によって休息が取れるようその時々状況に合わせて支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかつけ薬局にも教えてもらいながら薬の知識、理解を深め支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の趣味、嗜好など考慮しながら力を活かせるレクリエーションなど支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出ができるようご家族様や地域の支援を受け支援しています。	気候や個々の希望に応じて、近隣の散歩、玄関前での外気浴、花壇やプランターでの園芸レクリエーション等、戸外で活動する機会づくりに努めている。食事レクリエーション・おやつレクリエーションの食材の買い物にも参加できるよう支援している。神社でのお花見も再開している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の際には本人様にお金を使えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙などできるよう支援しています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共用スペース作りを意識し、飾りや照明など工夫しています。	各フロアの共用スペースにテーブル席・ソファ席、廊下にソファを設置し、思い思いの場所でくつろいで過ごせるよう配慮している。入口から共用スペースまで長い廊下があり、壁には1年間の行事写真や利用者と一緒に制作した作品が飾られている。安全に移動ができるよう手すりを設置し、生活リハビリにも活用している。室内は静かに快適に過ごせるよう、温湿度管理・空調・照明・テレビの音などに配慮している。キッチンから調理の音や匂いを感じられ、利用者も食事の片づけや洗濯物をたたんだり、一緒に掃除をする等、生活感を感じられるよう支援している。生活委員会で毎月レクリエーションを検討し、七夕・夏祭り・クリスマス等には利用者が楽しめる催しを企画し、季節ごとの制作にも参加できるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で思い思いに過ごせるよう工夫しています。	/	/
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使い慣れた物を利用いただきながら居心地の良い居室の配置を支援しています。	各居室に、ベッド・クローゼット・机・椅子・ナースコール等が設置されている。整理だんす・炬燵・テレビ・ラジオなど使い慣れた家具や電化製品、家族写真・アルバム・仏壇・鉢植えなど馴染みのものや趣味のものが持ち込まれている。寝具はリース対応しているが、希望に応じて持ち込みも可能である。床面にフロアクッション材やカーペットを敷き、安全面にも配慮している。利用者担当職員を設け、家族の協力を得ながら、利用者と一緒に衣替えを行う等、居室の環境整備を行っている。	

ゆうとび庵摂津・千里丘

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の能力を活かし安全かつできるだけ自立した生活がおくれるよう支援しています。		